



日本赤十字社は令和9年(2027年)5月1日
創立150年を迎えます。

令和7年度 事業報告書

1 日本赤十字社長期ビジョン

日本赤十字社は2027年(令和9年)の創立150周年に向け、目指す姿や行動指針を示した「日本赤十字社長期ビジョン」を令和元年度に策定しました。令和7年度は、長期ビジョン実行計画である第二次中期事業計画の最終年度でした。



支部では、管下の赤十字病院・血液センターとともに、「赤十字事業の活用」(P65参照)を広く呼びかけたほか、地区分区や赤十字奉仕団、有功会や会員など赤十字パートナーの方々の協力を得て新規会員や献血協力者等の拡大に努め、ビジョンが掲げる3つの「取り組む社会課題」の解決に向けて様々な取組みを進めました。

1 災害から人々が守られる社会づくり

- (1)赤十字奉仕団など赤十字ボランティアとの連携
- (2)市町担当課長・担当者会議の開催、市町担当課への防災・救護に関する説明
- (3)市町主催の行事やイベントへの参加
- (4)防災会や自治会等との連携、防災セミナーや講習の実施

2 人々の健康・福祉を支える地域づくり

- (1)地域包括ケアシステムの構築への協力
 - ア 市町地域包括ケア担当課や社会福祉協議会、高齢者サロン等との連携
 - イ 地域赤十字奉仕団による支援
- (2)市町の民生委員・児童委員協議会等との連携
- (3)公民館でのまちづくり委員会・自治会長会議等への参加

3 互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

- (1)小・中学校や高校での防災セミナー、防災出前授業、救急法などの講習の実施
- (2)自治会・自主防災会組織等公民館単位での地域組織との連携

2 社業振興



日本赤十字社の会員・社資募集の中心となる地域コミュニティは、人口の減少に加えて、人々の意識や生活スタイルの変化が重なり、希薄化が進んでいます。

こうしたことから、地区分区、自治会等を通じた会員募集を第一としつつ、赤十字奉仕団、有功会や個人・法人会員の方々に加え、防災・福祉等の活動に取り組んでおられる地域の方々を通じて赤十字が行っている活動の周知、会員・社資募集を進めました。

1 各種団体等の協力による赤十字活動の周知及び社資募集

(1)支部

- ア 赤十字運動推進会議や担当課長会議における協力依頼
- イ 自主防災組織や自治会、地域包括ケア推進課、市町民生委員児童委員協議会担当 課等の事業に参加(セミナー、講習等の実施)
- ウ 市町主催のイベント参加、赤十字関係ブースの設置等

(2)地区分区(市町日赤担当課)

- ア 自治会等への社資募集依頼、講習・セミナー等の活用呼びかけ
- イ 赤十字関連事業への参加・協力

(3)赤十字奉仕団

- ア 地区分区をはじめとする市町の関係事業に参加・協力
- イ 自治会等の事業への参加・協力

(4)福井県日赤有功会(昭和49年発足 清川 忠会長・会員200名)

有功会員の増強、寄付呼びかけ

(5)協賛委員

- ア 赤十字協賛委員である自治会長の協力による社旨普及、会員増強
- イ 各市町の自治会長会議等出席、赤十字活動への周知、協力依頼

(6)赤十字救急法指導員等

講習等を通じた赤十字活動への周知、協力依頼

(7) 法人会員、企業・団体

- ア 従業員のいのちと健康を守るための講習や災害への心得等の講習の普及
- イ ダイレクトメール送付による社資募集と新規会員の開拓
- ウ 赤十字寄付金付自動販売機や赤十字募金箱の設置

2 全国赤十字大会への参会

毎年5月に東京都の明治神宮会館において、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、同名誉副総裁の秋篠宮皇嗣妃殿下をはじめとする各妃殿下ご臨席のもと、全国赤十字大会が開催され、全国各地から受章者をはじめ関係者約2,000人が参集します。

令和7年度は、5月13日に開催され、本県から赤十字にご協力をいただいた方々30名が参会しました。

3 赤十字功労者表彰式及び福井県日赤有功会総会

社資募集に功労のあった個人45名と法人29社、1団体、赤十字業務に功労のあった個人4名に支部長からそれぞれ有功章や感謝状が贈呈されました。引き続き総会では大阪赤十字病院の光森健二国際医療救援部長(医師)が「拠点病院における日本赤十字社の国際活動」と題して講演されました。また、青少年赤十字加盟校に赤十字オリジナルクリアファイルが贈呈されました。



青少年赤十字加盟校代表者へのクリアファイル贈呈

4 会員登録の状況

令和6年度		令和7年度	
個人(人)	法人(社)	個人(人)	法人(社)
8,247	871	9,209	882

*平成29年4月1日から社員から会員に呼称を変更しており、2,000円以上のご協力をいただいた方を会員として登録しています。

5 社資募集実績（令和7年度）

・全体の状況

（単位：円・％）

	目標額	実績額	達成率	達成率 (6年度)
一般社資	113,647,000	130,669,087	115.0	96.8
① 地区分区扱	90,571,000	75,633,982	83.5	90.1
② 支部扱扱	23,076,000	55,035,105	238.5	123.1
法人社資	16,353,000	19,787,095	121.0	130.6
合計	130,000,000	150,456,182	115.7	101.0

・地区分区扱(市町別)の状況

地区分区名	目標額	実績額	達成率	達成率 (6年度)
福井市	18,285,000	16,516,731	90.3	109.9
敦賀市	7,959,000	4,792,979	60.2	75.7
小浜市	3,268,000	2,763,535	84.6	86.1
大野市	5,653,000	5,487,378	97.1	93.0
勝山市	4,117,000	3,888,030	94.4	94.4
鯖江市	7,634,000	5,987,833	78.4	79.7
あわら市	4,379,000	3,896,649	89.0	92.7
越前市	11,379,000	9,028,211	79.3	80.1
坂井市	11,302,000	10,032,195	88.8	92.9
永平寺町	3,788,000	2,250,199	59.4	70.4
池田町	501,000	397,632	79.4	82.8
南越前町	1,907,000	1,697,114	89.0	92.2
越前町	3,821,000	3,621,028	94.8	93.3
美浜町	1,257,000	1,027,061	81.7	82.3
高浜町	1,841,000	1,610,753	87.5	83.3
おおい町	1,125,000	1,106,813	98.4	101.2
若狭町	2,355,000	1,529,841	65.0	68.8
計	90,571,000	75,633,982	83.5	90.1

〔参 考〕 令和8年度 地区分区扱(市町別) 目標額

近年の状況を勘案して地区分区扱(市町別)目標額を見直し、直近5年間(令和2～6年度)の社資実績平均額を令和8年度の目標額としています(令和7年11月 赤十字事務担当課長会議(日赤地区分区幹事会議)において決定)。支部全体の社資募集目標は変更ありません(総額1.3億円)。

(単位:円・%)

地区分区名	目標額(令和7年度) A	目標額(令和8年度) B	目標増減率 (B / A)
福井市	18,285,000	17,280,000	94.5
敦賀市	7,959,000	5,750,000	72.2
小浜市	3,268,000	2,920,000	89.4
大野市	5,653,000	5,350,000	94.6
勝山市	4,117,000	4,030,000	97.9
鯖江市	7,634,000	6,350,000	83.2
あわら市	4,379,000	4,120,000	94.1
越前市	11,379,000	9,730,000	85.5
坂井市	11,302,000	10,660,000	94.3
永平寺町	3,788,000	3,280,000	86.6
池田町	501,000	430,000	85.8
南越前町	1,907,000	1,770,000	92.8
越前町	3,821,000	3,460,000	90.6
美浜町	1,257,000	1,120,000	89.1
高浜町	1,841,000	1,540,000	83.7
おおい町	1,125,000	1,110,000	98.7
若狭町	2,355,000	1,720,000	73.0
地区分区の計	90,571,000	80,620,000	89.0

6 評議員会等の開催

日本赤十字社定款において、各都道府県支部に評議員会を置くことが定められており、当支部の評議員会は、市町長をはじめとする33人の評議員で構成されています。

評議員会において、支部長、副支部長及び監査委員の選出(令和8年1月に石田支部長、4月に北川監査委員)並びに事業計画、予算・決算等の審議を行いました。

(1)評議員会

ア 上期評議員会

- ・令和6年度事業報告について(支部、病院、血液センター)
- ・令和6年度決算報告について(支部、病院)

イ 下期評議員会

- ・令和8年度事業計画について(支部、病院、血液センター)
- ・令和8年度予算について(支部、病院)

(2)監査

ア 監査委員による監査

令和6年度における支部、病院及び血液センターの業務運営並びに支部・病院の各会計歳入歳出決算にかかる監査を行い、いずれも適正であるとの報告を受けました。

イ 監査法人による監査

書面監査が行われ、重大な指摘はないとの報告を受けました。

3 広報活動



赤十字に対する理解を広め、「人道支援活動の要」として認知されるよう、赤十字事業（講習・防災セミナー等）の活用を呼びかけたほか、各種イベント等における広報資材の配布、支部のホームページやSNS、メディアを通じた情報発信などの広報活動に取り組みました。

1877年（明治10年）に創設された日本赤十字社は、2027年（令和9年）に150周年を迎えます。日本赤十字社の礎を築いた先人たちの思いを、再び思い起こし、赤十字運動を次世代につなげ、発展させるための広報に努めます。

1 会員増強・社資募集につなげる広報

(1) 広報資材の配布

- ア 広報誌「日赤ふくい」の全世帯への配布、回覧
- イ 地区分区、管内施設への赤十字NEWS・ポスター・リーフレット等の配布
- ウ 医療用品（マスク）を活用した広報物の配布
- エ 遺贈や企業等の記念日等を契機とした社会貢献案内パンフレットの配布

(2) 赤十字運動月間キャンペーン

- ア 地域赤十字奉仕団による街頭募金活動
- イ 支部社屋壁面や地区分区庁舎における懸垂幕の掲示
- ウ 県庁1階ホールや人道の港「敦賀ムゼウム」での赤十字紹介パネルの展示
- エ 商業施設での「もっとクロス！赤十字展」開催（5月3～5日）
- オ 世界赤十字デー（5月8日）を中心としたライトアップ
- カ テレビCM（民放2社）の放映、パブリシティ（民放1社）の実施

(3) 年間を通じた情報発信

- ア 市町や地域、団体等が行うイベントとタイアップしたPR活動
- イ ダイレクトメールの活用をはじめとした個人・法人会員の増強
- ウ 各種行事やニュースなどのホームページ掲載・X投稿、報道機関への情報提供

2 赤十字活動の周知、普及を主とした広報

(1) 県内における広報

- ア 学校・自治会や防災会・民生委員協議会等の見学の誘致、実習等への協力
- イ 各事業を通じた赤十字精神の普及

(2) 「赤十字ゆかりの地」のアピール

- ア 橋本綱常先生の胸像(福井赤十字病院前庭の胸像(初代赤十字病院長として活躍された時期のもの)と福井市立郷土歴史博物館所蔵の胸像(晩年期))の広報
- イ 日本赤十字社初の外国人難民救済活動の地である敦賀を人道の港「敦賀ムゼウム」におけるライトアップによりPR(P73参照)



「敦賀ムゼウム」を赤くライトアップ

3 日本赤十字社創立 150 周年プロジェクトの推進

創立150周年を機に、様々な立場の赤十字運動推進者の思いや考えを結集し、「新しい時代の赤十字」づくりを目指し、記念事業、広報イベント等とあわせて将来構想の策定を進めています。令和7年度は会員やボランティアなど赤十字運動推進対象者対象のワークショップ、アンケートを実施しました。



150周年プロジェクトにおける職員向け冊子「継想録」とワークショップ

4 大阪・関西万博 国際赤十字・赤新月パビリオン訪問

地域赤十字奉仕団や福井県日赤有功会がパビリオンを訪れ、赤十字の歴史やこれまでの活動等を学びました。また、運営スタッフとして、支部職員3名を派遣しました。



職員派遣



大阪・関西万博184日の記録

4 赤十字奉仕団



赤十字奉仕団は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る。」という赤十字の使命を果たすため、様々な活動を実践しようとする方々により結成されたボランティア組織です。

福井県支部には、地域ニーズを踏まえた活動を行う「地域赤十字奉仕団」、大学生で組織される「青年赤十字奉仕団」、災害救護や無線などの特殊な技能を生かした活動を行う「特殊赤十字奉仕団」(無線、救護、青少年赤十字賛助及び柔道整復師会)があります。

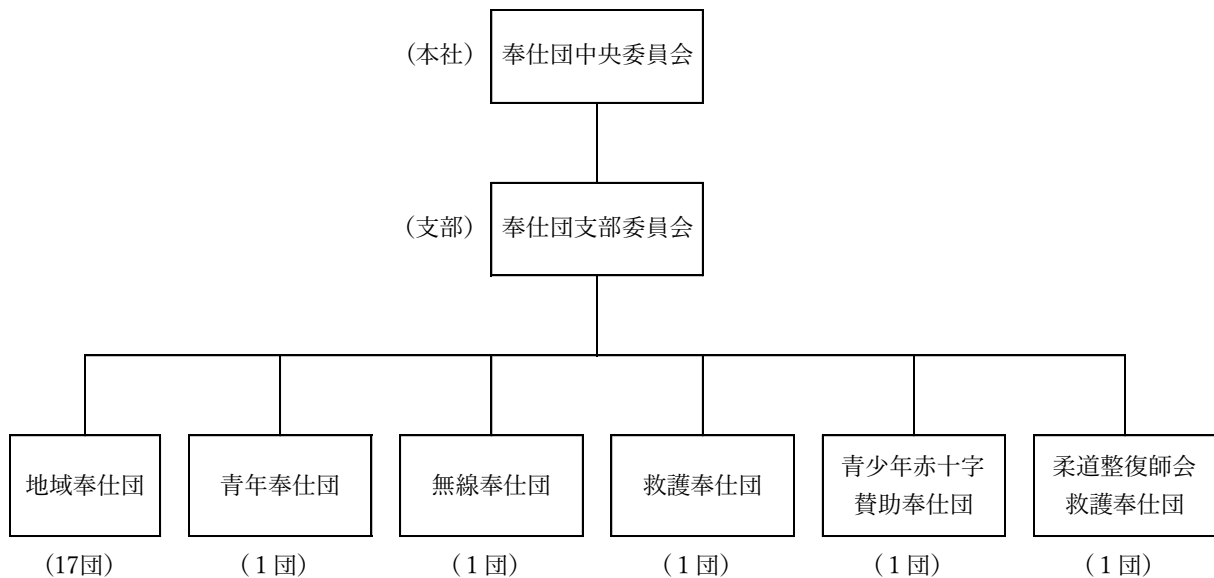
【団数及び団員数】

(令和8年6月現在)

名 称		委員長 (敬称略)	団 数	団 員 数(人)
地 域 赤 十 字 奉 仕 団		定 池 りゆ子	17	10,118
青 年 赤 十 字 奉 仕 団		中 川 由 梧	1	26
特 殊 奉 仕 団	無 線 赤 十 字 奉 仕 団	帰 山 正 義	1	22
	赤 十 字 救 護 奉 仕 団	鴨 田 忍	1	31
	青 少 年 赤 十 字 賛 助 奉 仕 団	池 上 敏 和	1	29
	柔 道 整 復 師 会 赤 十 字 救 護 奉 仕 団	宮 下 治 由	1	150
合 計			22	10,376

※上記の他、本社直轄の赤十字飛行隊福井支隊(隊員1名)があります。

◎ 赤十字奉仕団組織図



1 地域赤十字奉仕団

市町ごとに結成されており、社資募集や地域での福祉活動を行うとともに、赤十字運動の担い手として赤十字思想の普及、防災訓練への参加や炊き出しを通して救護などの知識・技術の修得に努めています。

(1)各種会議の開催

- ・赤十字奉仕団福井県支部委員会(令和8年3月2日)
- ・上期、下期赤十字委員長会議(4月4日、10月30～31日)
- ・赤十字奉仕団中央委員会(7月3～4日)
- ・常任委員会(6月5日)
- ・第3ブロック赤十字奉仕団委員長、担当者会議(9月4～5日)

(2)研修の実施

- ・赤十字奉仕団委員長・団員全体研修会(8月28日～29日)
- ・赤十字奉仕団大阪・関西万博視察研修(9月18日～19日)

(3)支部の広報・促進事業

- ・赤十字会員増強運動月間街頭キャンペーンや各家庭を訪問しての普及活動
- ・「もっとクロス！赤十字展」への協力(炊き出し、防災グッズ作製など)



炊き出しの無料配布



防災グッズ作製コーナー

(4)地区分区単位での活動

- ・各地域行事における奉仕団ブースの設置や炊き出しの実践
- ・社資、災害義援金及び海外救援金の募集
- ・献血の呼びかけ、受付補助
- ・訓練や研修、講習会等への参加

- ・フードドライブや独り暮らし高齢者訪問、児童防災教育やリサイクルの収益金による物品寄付、ささえあい事業や他団体との連携事業など(P89参照)

(5) 奉仕団モデル指定事業

新たな赤十字奉仕団活動、奉仕団が抱える課題の解決、活動活性化等を目的に支部が設けている「福井県赤十字奉仕団モデル指定事業助成金」を活用し、福井市地域奉仕団とガールスカウトとの連携事業を実施しました。



ガールスカウトと福井市奉仕団の
連携事業(コラボで防災 in AOSSA)

2 青年赤十字奉仕団

福井大学及び福井県立大学の学生で組織され、日常生活の中で望ましい人格と精神をつくりあげることが目的に、人道・博愛の赤十字精神に基づき、福祉や献血などの奉仕・普及活動を行っています。

- (1) もっとクロス！赤十字展への協力(献血呼びかけなど)
- (2) 第3ブロック青年奉仕団委員長・担当者会議(6月21～22日)

3 無線赤十字奉仕団

アマチュア無線従事者で組織され、赤十字の行う災害救護業務を円滑に行うため、無線技術を生かして活動しています。平時においては全国の無線赤十字奉仕団等と非常通信訓練を行うなど災害時に備えています。

- (1) 県外無線赤十字奉仕団との非常通信訓練
- (2) マラソン大会での無線連絡協力

4 赤十字救護奉仕団

救急法救急員等の資格者等により結成されており、救護班の補助など災害救護業務を円滑に行うための研修や防災訓練等への参加、赤十字事業の広報を行っています。

(1)「もっとクロス！赤十字展」など各種イベントにおける広報協力

(2)災害時におけるボランティア活動

5 青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字の普及・発展と加盟促進に協力し、赤十字の発展に寄与することを目的に、加盟促進や加盟式でのゲストティーチャー、防災出前授業の指導者、トレセンでのスタッフ支援など、青少年赤十字活動を通じて青少年の健全育成に努めています。

(活動内容は「8 青少年赤十字(JRC)」参照)

6 柔道整復師会赤十字救護奉仕団

柔道整復師の有資格者で組織され、その技能を生かしてマラソン大会等で救護を要する人への奉仕活動等を行っています。

(1)スポーツ大会での救護活動

(2)マラソン大会での奉仕活動

7 赤十字飛行隊福井支隊

赤十字飛行隊は日本赤十字社本社直轄の奉仕団です。日本赤十字社が行う災害救護など人道的な業務に、航空機を使用して無償で協力することを目的に、社団法人(当時)日本飛行連盟を母体に昭和38年に結成されました。本県には福井支隊があります。



5 国際活動

世界の赤十字社(赤新月社等を含む。)は現在191社あり、日本赤十字社は、国際赤十字の一員として各国の赤十字社・赤新月社やジュネーブにある赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)や国連機関と協力し、戦争や自然災害などで苦しんでいる人々に中立・公平な立場で救援、支援活動を行っています。

1 国際救援・国際開発協力事業

支部では第3ブロック支部共同事業として、「(レバノン)プライマリーヘルス・スケールアップ事業」「(アジア・大洋州)給水・衛生災害対応キット整備事業」「(南部アフリカ地域)感染症対策事業」の各事業に対する財政支援を行いました。

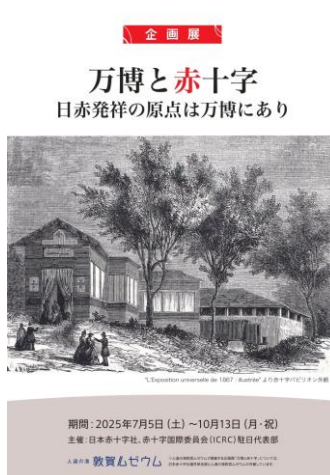
2 海外救援金の受付・募集

日本赤十字社では、海外で大規模災害等が発生した際、被災国の赤十字社やICRC等の緊急要請に応じて救援金の募集を行います。支部では、福井銀行等の協力を得て募集しています。

また、福井銀行のほか県内の農協・漁協に受付口座開設などご協力をいただき、12月1日から25日まで海外たすけあいキャンペーン(NHKと共催)を行いました。

3 人道の港「敦賀ムゼウム」との連携

日本赤十字社初の外国人難民救済活動の地である敦賀港は、`人道の港、と呼ばれてきました。当時の状況を紹介している敦賀ムゼウムにおいて、大阪・関西万博にあわせ、企画展「万博と赤十字」(7月5日～10月13日)を開催しました。



【海外救援金の受付状況(令和7年度)】

(令和8年3月末現在)

救 援 金 名	件 数	金 額 (円)
アフリカ救援金	8	33,000
中東人道危機救援金	3	42,500
バングラデシュ南部避難民救援金	1	2,500
ウクライナ人道危機救援金	9	237,662
2025年ミャンマー地震救援金	30	902,135
2025年パキスタン洪水救援金	2	20,100
2025年アフガニスタン地震救援金	3	28,962
イラン及び周辺国人道危機救援金	1	10,000
NHK 海外たすけあい(2025年12月)	66	2,244,613

4 安否調査

安否調査は、赤十字の世界的ネットワークを生かした事業の一つです。国内外からの依頼に基づき、行方不明者の所在地調査等を行っています(令和7年度は実績なし)。

6 災害救護



日本赤十字社は、災害対策基本法により指定公共機関に位置づけられており、また、災害救助法により救助への協力義務が定められています。さらに同法第16条の規定により、都道府県知事は、救助又はその応援の実施に関し必要な事項を日本赤十字社に委託することができるかとされています。この委託により、日本赤十字社は都道府県知事の行う救助の業務を引き受けています。

1 救護活動等状況

令和7年度は救護班等の出動はなし

2 救護組織

(1)常備救護班の編成

日本赤十字社には、現在全国で約500班の常備救護班が編成されています。支部では、日本赤十字社救護規則等に基づき、福井赤十字病院に8班、2つの公立病院に1班ずつの計10班の常備救護班を編成し、救護に備えて体制を整えています(原発事故等に備え放射線技師が加わっています。)

【常備救護班編成表】

(単位:人)

施設名	班名	救護班要員数					
		医師	看護師長	看護師	主事	薬剤師	特殊救護要員 (放射線技師)
福井赤十字病院	第1~8班	8	8	16	16	8	8
市立敦賀病院	第9班	1	1	2	2		
杉田玄白記念公立小浜病院	第10班	1	1	2	2		
計	10個班	10	10	20	20	8	8

(2)日赤災害医療コーディネートチームの編成

被災地における医療ニーズの把握や、全国から支援に駆けつける医療チームを効率的・効果的に調整するため、本社及び各支部に「日赤災害医療コーディネートチーム」を設置しています。当支部では、災害医療コーディネーター(医師)及びコーディネートスタッフ(看護師・主事)からなる同チームを現在14名で編成しています。

(3)「救護員としての赤十字看護師」の登録・任命

日本赤十字社では、看護師(助産師を含む。)として採用された者に対して、災害時に必要な知識、技術、態度を修得させ、その課程を修了した者を支部長が「救護員としての赤十字看護師」に登録・任命(令和7年度は38名)しています(P82参照)。

(4)「こころのケア要員」の養成

被災地に派遣された救護員が、被災者に寄り添った活動ができるよう、17名のこころのケア指導者が要員育成を行っています。

(5)災害対策本部要員の登録

支部災害対策本部の設置に備え、支部職員及び血液センター職員を災害対策本部要員として登録し運営体制を整えています。

(6)DMATの登録

災害拠点医療機関として、福井赤十字病院にDMAT隊員24名が登録されています。

3 災害救護訓練及び研修等

災害等が発生したときに、直ちに救護班等の医療支援チームを現地に派遣できるよう各種訓練や研修に参加し、行政や防災関係機関、本社及び各他県支部と緊密な連携を図るなど質向上に努めています。

(1)訓練

- ・日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練(10月11～12日)
- ・福井赤十字病院災害対応訓練(11月15日)
- ・中部ブロックDMAT実働訓練(11月14～15日)
- ・福井県総合防災訓練(11月8日)



支部合同災害救護訓練

(2)研修

- ・支部常備救護班要員等研修(6月28日)
- ・支部災害対策本部運営研修(8月13日)
- ・日赤災害医療コーディネート研修(8月29～31日、10月31～11月2日)
- ・日本赤十字社第3ブロック救護班研修会(9月13～14日)
- ・都道府県災害医療コーディネーター研修(10月18～19日)
- ・こころのケア指導者養成研修会(10月21～23日)
- ・避難生活支援リーダー/サポーター研修講師養成講習(令和8年3月25日)
- ・日本DMAT隊員養成研修(5月26～30日)
- ・統括DMAT研修(6月15～17日)
- ・中部ブロックDMAT技能維持研修(7月8～9日、令和8年2月20～21日、3月8日)
- ・市町災害時対応力強化研修(5月12日)
- ・福井県災害医療従事者能力向上研修(8月23～24日)

4 災害救援物資の備蓄及び配布

支部及び地区分区に毛布・緊急セット・安眠セット等の救援物資を備蓄し、災害時には被災者へ迅速に配布します。

【救援物資備蓄状況(令和8年3月末現在(地区分区備蓄を含む。))】

品名	備蓄数
毛布	2,580枚
タオルケット	1,363枚
緊急セット	2,479セット
安眠セット	579セット
Tシャツ	1,252枚
ラップポン(簡易トイレ)	8台

5 救護資器材・装備の整備

救護装備(ヘッドライト、ヘルメット及びゴーグル)や救護服の整備、衛星電話及び通信機器の更新を行いました。

6 臨時救護員の派遣

公共的なスポーツ大会や祭典等の行事に臨時救護員(現在11名が登録)を派遣し、事故防止及び応急手当を行いました。

また、臨時救護員連絡会議において、救護員間の連携や情報の共有を行いました。

【臨時救護員の派遣状況(令和7年度)】

イベント数	派遣数	傷病者取扱数
70件	131名	140名

7 海水浴場における救護用医薬品の購入補助

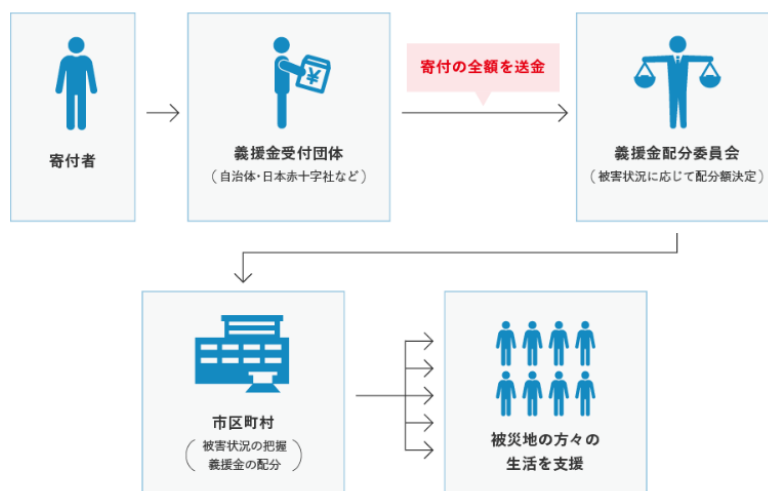
海水浴場で救護を実施している地区分区に対し、医薬品補充に要した経費の一部を助成しました(高浜町1か所)。

8 災害救護用資材等の整備

地区分区の災害救護資材の整備のために30万円を限度とし、総経費の2/3を助成しています。令和7年度は、福井市、大野市、勝山市、鯖江市、永平寺町及びおおい町に救護資材等を整備しました。

9 国内義援金の受付

国内で災害が発生した際、本社通知に基づき義援金の受付募集を行いました。支部に寄託された義援金は、本社を通じて被災地県の義援金配分委員会に送金しました。



【義援金の受付状況(令和7年度)】

(令和8年3月末現在)

義援金名	対象(県)	件数	金額(円)
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	静岡	9	100,822
令和7年台風第12号災害義援金	鹿児島	5	49,112
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	熊本 鹿児島	23	222,359
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	沖縄	10	47,081
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	鹿児島	8	33,869
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	岩手	18	470,519
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	石川	27	459,072
令和6年能登半島地震災害義援金	石川 富山 新潟	82	7,170,791
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	大分	10	188,041
令和7年青森県東方沖地震義援金	青森	7	42,485
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	東京都	4	41,590

10 赤十字看護師の養成

赤十字看護師の養成は、長い歴史と伝統をもつ重要な事業の一つです。支部では、福井赤十字病院が行う看護学生奨学金制度に対し助成金を交付するなど、福井赤十字病院に就労する看護師の確保に努めています。

11 赤十字防災セミナーの開催

大規模災害からいのちを守るためには、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高める防災力の強化が極めて重要です。支部では、地域住民の方々自らが災害からいのちを守り、被災に伴う心身の苦痛を軽減することを目指し、赤十字防災セミナーを開催しています。

令和7年度には、その指導者を新たに養成し、指導者派遣体制の充実を図りました。

【セミナー等の実施状況(令和7年度)】

項目	令和6年度		令和7年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数
災害への備え	5	235	12	519
災害エスノグラフィー	0	0	0	0
災害図上訓練(DIG)	2	58	3	134
家具安全対策ゲーム(KAG)	2	50	0	0
おうちのキケン	1	24	0	0
ひなんじょたいけん	7	261	24	907
支部独自の防災・減災活動 (日本赤十字社の紹介を含む。)	27	1,023	39	1,740



防災教育事業指導者養成講習

7 救急法等の講習



日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る。」という使命に基づき、「救急法」、「健康生活支援」、「水上安全法」、「幼児安全法」、「雪上安全法」の5種類の講習を行いました。

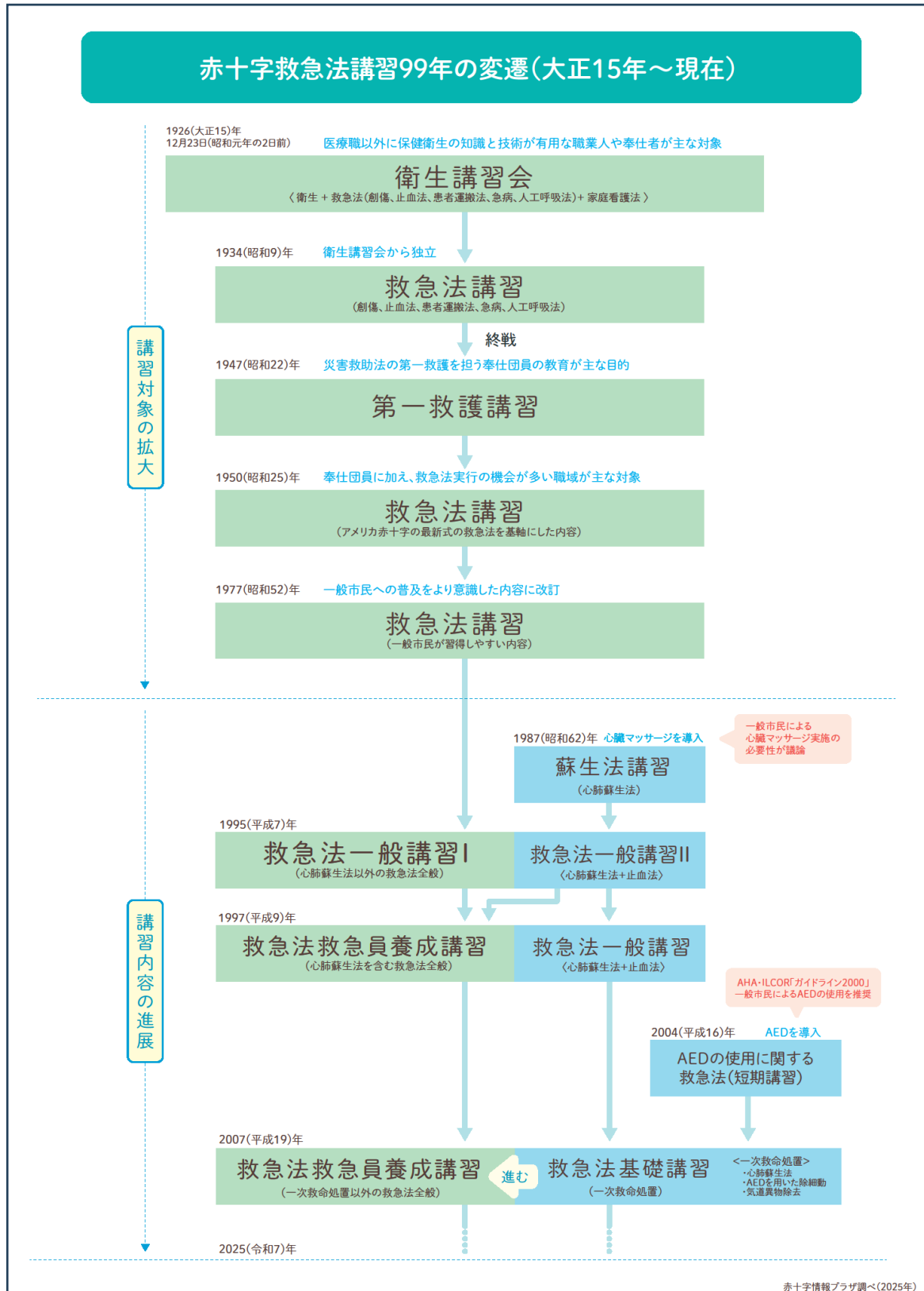
1 各種講習実施状況

種 類		令和6年度		令和7年度	
		回数	受講者数	回数	受講者数
救急法 指導員 70 名 ボランティア 42 名 赤十字職員 28 名	基礎講習	24	437	24	376
	救急員養成講習	15	165	19	352
	短期講習(適宜)	125	3,910	136	6,451
	小 計	164	4,512	179	7,179
健康生活支援 指導員 30 名 ボランティア 13 名 赤十字職員 17 名	支援員養成講習	2	32	3	46
	短期講習(適宜)	39	862	62	1,486
	小 計	41	894	65	1,532
水上安全法 指導員 18 名 ボランティア 17 名 赤十字職員 1 名	救助員Ⅰ養成講習[プール]	5	44	3	27
	救助員Ⅱ養成講習[海]	1	8	1	2
	短期講習(適宜)	14	335	17	635
	小 計	20	387	21	664
幼児安全法 指導員 27 名 ボランティア 18 名 赤十字職員 9 名	支援員養成講習	2	37	2	44
	短期講習(適宜)	28	1,757	33	2,148
	小 計	30	1,794	35	2,192
雪上安全法 指導員 3 名 ボランティア 3 名	救助員Ⅰ養成講習	1	6	1	7
	短期講習(適宜)	0	0	1	2
	小 計	1	6	2	9
合 計		256	7,593	302	11,576

2 各講習指導員への研修等

指導員の知識・技術を維持するための研修を行い、講習技能の向上に努めました。

また、救急法講習指導員に対する審査を実施し、指導員資格の更新を行いました。



8 青少年赤十字(JRC)



青少年赤十字(JRC=Junior Red Cross)は、園児・児童・生徒が「人道・博愛」の赤十字の精神に基づき、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としています。

JRCの普及発展を目的とした青少年赤十字福井県指導者協議会を組織し、青少年赤十字賛助奉仕団等と連携を深めながら、「気づき 考え 実行する」を態度目標に、園児・児童・生徒の自立した生活態度やリーダー性の育成に努めました。

1 加盟状況

【青少年赤十字加盟状況(令和7年度)】

校種別 学校数	加盟			全国加盟率(%) (令和6年度)
	加盟校数(校)	加盟率(%)		
小学校 (188校)	180	95.7		37.0
中学校 (77校)	70	90.9		34.8
高等学校 (32校)	12	37.5		36.3
特別支援学校 (12校)	0	0		19.6
合計 (309校)	262	84.8		35.7

・保育所・幼稚園・こども園加盟数 43園(学校数は、学校基本調査に準じ分校、休校等を含む。)

2 主な会議・講習会等の開催状況

開催月日		事業名	対象者	会場
4	24	指導者協議会運営研究会	会長・理事・幹事等	支部
5	16	指導者協議会総会・全体研究会	加盟校教職員・賛助奉仕団員	県自治会館
	24	高校生協議会総会	加盟校生徒・指導者	支部
	30~1	JRCトレセン指導者養成講習会	加盟校指導者派遣	東京
6	11	JRC担当者研修会	加盟校担当者(嶺南ブロック)	三方青年の家

	17~18	3B 賛助奉仕団連絡協議会	委員長	三重県
	20	3B 指導者協議会会長・担当者会議	会長・支部職員	長野県 Web
7	4	JRC 全国指導者協議会総会	会長等	日赤本社
	8~9	全国 JRC 賛助奉仕団協議会総会	委員長	日赤本社
	23~24	小中学生トレセン(1泊)	小中学生・指導者	奥越高原 青少年自然の家
	28	福井市教委目的別研修	福井市教職員	支部
8	5~7	高校トレセン(2泊)	加盟校生徒・指導者	敦賀市立 少年自然の家
	6	JRC 研究会(指導主事)	県教委指導主事	日赤本社
10	25	高校生国際交流の集い	加盟高校生徒・指導者	支部
	30~3	JRC 国際交流集会	高校生協議会代表生徒・指導者	東京
11	20	賛助奉仕団総会・研修会	賛助奉仕団員	県教育センター
12	9	指導者協議会運営研究会 2	会長他 理事・幹事	県支部 Web
2	5	会長・副会長会(役員選考会)	会長・副会長・県校長会長	県支部 Web
3	20	高校リーダー研修会(ハイドハンド発行)	加盟校生徒・指導者	県支部
	22~26	JRC スタディー・センター	高校生協議会代表生徒	山中湖村東照館

3 活動推進校への活動費助成

(1)活動推進校

- ・6~7年度 服間小学校(越前市)・高浜小学校(高浜町)
灯明寺中学校(福井市)・勝山南部中学校
- ・7~8年度 清水東小学校(福井市)・上庄小学校(大野市)
朝日中学校(越前町)、気比中学校(敦賀市)
- ・6~8年度 啓新高等学校(福井市)



小中学生トレセン

(2)活動報告

広報誌「ふくい」で研究実践を報告

4 高校生国際交流の集い

青少年赤十字高校生協議会が主催し、県内在住の外国人との交流を通して、互いの国の文化などを学びながら、青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」に努めることを目的として平成11年度から福井県支部を会場に開催しています。

令和7年度は、ALTと留学生を招き、「日本を遊びつくせ」というテーマで交流しました。高校生が日本の遊びを紹介するブースを運営し、体験的な交流をしながら楽しんで活動できました。



高校生国際交流の集い

5 防災出前授業の実施

自然災害について正しい知識をもち、自ら考え判断し、危険から身を守る行動力を身につけるため防災教育を行っています。

【防災出前授業 実施状況(令和7年度)】

こども園等	6園
小学校	11校
高等学校	1校
児童クラブ等	7か所
参加者数合計	1,226人



出前授業「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」



海外たすけあい募金活動

9 医療事業



福井赤十字病院

1 病院の概要

許可病床数:477床 一般病床 468床(ICU8床、SCU12床、PCU20床含む)

結核病床 5床

感染症病床 4床

診療科:代謝・内分泌内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、腫瘍内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、緩和ケア内科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、救急科、歯科、歯科口腔外科、臨床検査科(計33科)

診療時間:8:30~17:00

休診日:土曜日・日曜日・祝日

日本赤十字社創立記念日(5月1日)・年末年始(12月29日~1月3日)

職員数:医師・歯科医師	157名
看護職員	572名
医療技術職員	186名
事務職員	155名
技能業務職員	59名
計	1,129名

(令和8年3月末現在)



2 令和7年度の主な取り組み

地域医療支援病院として、高度専門医療および救急医療を安定的に提供するため、診療機能の充実と地域医療の連携推進に取り組みました。

具体的には、地域医療構想の中での当院の役割を踏まえ、3か年中期ビジョン(令和7~9年度)の初年度として、下記の4つの柱の実行に取り組みました。

《中期ビジョン(令和7~9年度)》

1. 未来への力を育む健全な経営基盤
2. 最前線で応える高度急性期医療
3. 未来の医療と社会を支えるための成長と自己実現の場
4. 地域とともにきづく健康な未来

また、令和7年度に当院は創立100周年を迎え、様々な記念行事を行うことで、次の100年に向けて、安心・安全な医療を行い、地域の皆さんに信頼される病院であり続けることをあらためて決意しました。

(1) 病床機能の再編

福井県地域医療構想に対応し、病床数の削減を行いました。一般病床である3-3病棟と結核病棟である5病棟を閉鎖しました。また、結核病床としての機能は本館2-6病棟に配置し、病床機能の再編を行い、急性期医療機能の充実および診療体制の高度化を図りました。

許可病床数は令和6年度の529床から令和8年2月には477床へと変更となりました。

(2) 高度専門医療の充実

脳卒中治療の充実として、高画質の画像が得られ、放射線の被ばく量が大幅に低下し、より安全に治療が行える最新の脳血管撮影アンギオ装置を導入しました。

また、手術支援ナビゲーションシステムや内視鏡画像管理システムを最新かつ高機能な機種へ更新整備し、より正確な診断、より高度な治療を行うことができる環境を整えました。

(3) 連携医療機関等との関係強化

診療に役立つ最新の話題や各科の取り組み等を紹介するイブニングセミナーや情報交換会の開催(17回/年)、当院の認定看護師を講師として派遣するなど地域医療の質の向上と地域の医療機関等との連携強化に努めました。

また、県内初となる二施設合同による連携医療機関対象のWEB予約システム導入に向けた取り組みを行いました。具体的には県立病院と共同し、連携医療機関が二施設の紹介予約をWEB上で取得できる運用フローを構築しました。

(4) 患者満足度の向上

看護外来(ルピナス)において、がんサポートや摂食・嚥下など9つの領域について、専門的な知識や技術を持つ認定看護師がきめ細やかなサポートとケアを行うなど体と心にやさしい医療を推進しました。

(5) 良い人材の確保・育成

初期臨床研修医・後期臨床研修医(専攻医)の確保において、研修プログラムの充実を図るとともに、積極的に募集活動を行いました。その結果、初期臨床研修医 医科12名(定員12名)、歯科1名(定員1名)、麻酔科後期臨床研修医(専攻医)1名が採用となりました。

看護師の確保については、看護学生に対する奨学金貸与制度(令和7年度26名)により就学支援を行うなどした結果、48名の看護師を採用しました。また、令和6年度より奨学金貸与制度の対象を薬学生にも広げています。

人材育成では、キャリアラダー制度によって、看護師105名、事務職4名、薬剤師2名、リハビリテーション技師15名、臨床検査技師14名、看護助手8名が新たなレベルを取得しました。また令和7年度より新たにキャリアラダー制度を導入した部門では、管理栄養士2名、視能訓練士1名がラダー資格を取得しました。

(6) 創立100周年記念事業

当院は大正14年(1925年)に創立され、令和7年4月に創立100周年を迎えました。これを記念して6月に記念式典、9月に100周年記念市民公開講座、10月には病院まつりを開催しました。

また、赤十字病院の活動を更にアピールするために、本館の赤十字マークおよびヘリポートのライトアップ工事を行いました。

3 患者数・健診センター受診者数

(1)患者延数

単位:人

年 度	入 院	外 来
令和7年度	146,621	259,152
令和6年度	148,353	276,041
増 減	△1,732	△16,889
増減率(%)	△1.2%	△6.1%

(2)健診センター受診者数

単位:人

年 度	外来ドック	特定健診	特定保健指導	健康診断
令和7年度	6,603	48	115	4,035
令和6年度	6,405	8	11	3,769
増 減	198	40	104	266
増減率(%)	3.1%	500.0%	945.5%	7.1%

4 医療社会事業活動(在宅医療の推進、地域包括ケアシステムの支援等)

(1)福井赤十字訪問看護ステーション

病気や障害を持ちながらもその人らしい生活が送れるように、専門家の目で見守り、適確なアセスメントに基づいたケアとアドバイスを行っています。当ステーションは、難病やガン末期、特別管理が必要な方など医療依存度の高い利用者が53%と多いことが特徴です。在宅・入院含め看取りにかかわった方も43件/年ありました。

訪問看護ステーション利用数

年 度	利用者数(人)	利用件数(件)
令和7年度	138	7,208
令和6年度	149	7,080

(2)福井赤十字病院居宅介護支援事業所

介護保険法に基づき他のサービス提供機関と連携を図りながら、要支援及び要介護状態の改善を図るため、必要なサービスに関する適切なケアマネジメントを行い、療養生活を支援しました。また、令和4年度から要支援の患者さんについても新たにケアマネジメントを開始しています。

居宅介護利用者数

単位：人

年 度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
令和7年度	132	202	342	277	210	143	80	1,386
令和6年度	139	116	273	266	209	147	117	1,267

(3)病院ボランティア

患者さんの受診手続案内、車椅子の介助、衛生材料づくり等の活動を行いました。

○令和7年度登録者数40名 年間活動延べ人数 3,047名 1日平均12.6名

(4)市民公開講座

地域住民の健康管理及び予防医学の推進を目的として、下記の講座を開催しました。

○令和7年9月7日(日) フェニックス・プラザ 小ホール 345名参加

テーマ「生きる力を考える～がんと向きあういのちの舞台～」

○令和8年3月1日(日) 福井赤十字病院栄養管理棟講堂 217名参加

テーマ「“もしも”の前に知っておきたい！脳卒中と心臓病～予防のコツと広がる治療の選択肢～」

10 血液事業



福井県赤十字血液センター

福井県赤十字血液センターでは、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」(以下ラブラッド)への登録と予約献血・複数回献血の推進を行い安定的な血液確保対策を行いました。

ラブラッドの登録では、献血可能年齢に達しないなどの献血未経験者についてもプレ会員登録を推進し将来の献血者候補の確保に努めました。また、ソーシャルネットワークサービス(SNS)等を活用し、献血に興味を持ってもらえる情報発信を継続的に行いました。

上記のことを始め、行政や献血関連団体等の協力を得て安定的な献血血液の確保に努め、令和7年度もこれまでどおり医療機関の要請に応じた供給を行うことができました。

1 輸血用血液製剤の供給状況

医療機関からの輸血用血液製剤の需要は、計画に対し 14,012 単位(13.9%)の増加となりました。

区 分	令和7年度計画		令和7年度実績				令和6年度実績単位数	
	単位数	構成比	単位数	構成比	対計画比	対前年比		供給実本数
全血製剤	0	—	0	—	—	—	0	0
赤血球製剤	41,000	40.7%	43,885	38.3%	107.0%	101.6%	22,428	43,199
血小板製剤	51,500	51.2%	62,890	54.9%	122.1%	114.3%	6,421	55,040
血漿製剤	8,100	8.1%	7,837	6.8%	96.8%	103.0%	3,842	7,608
合 計	100,600	100.0%	114,612	100.0%	113.9%	108.3%	32,691	105,847

※単位 赤血球製剤は、200mL 献血に由来する赤血球を1単位。400mL 献血に由来する赤血球を2単位で換算。

血小板製剤は、血小板成分献血由来を1単位～20単位で換算。(1単位:200mL相当)

血漿製剤は FFP-LR120, FFP-LR240, FFP-LR480 を1単位、2単位、4単位で換算。

※上記は、滋賀県湖北地域の3医療機関への供給分も含む。

(内訳:赤血球製剤 484 単位、血小板製剤 290 単位、血漿製剤 68 単位)

2 献血者の受入状況

献血者数については、計画に対し 739 人(2.8%)の増加となりました。

・献血者数

(単位:人)

区 分	令和7年度計画		令和7年度実績				令和6年度実績献血数
	献血数	構成比	献血数	構成比	対計画比	対前年比	
200mL	442	1.6%	992	3.6%	224.4%	108.3%	916
400mL	18,785	69.9%	18,804	68.1%	100.1%	100.2%	18,764
成 分	7,632	28.4%	7,802	28.3%	102.2%	99.5%	7,841
血小板	—	—	—	—	—	—	—
血 漿	7,632	28.4%	7,802	28.3%	102.2%	99.5%	7,841
合 計	26,859	100.0%	27,598	100.0%	102.8%	100.3%	27,521

・施設別受入状況

(単位:人)

区 分	令和7年度計画			令和7年度実績						令和6年度 実績献血数
	全血	成分	合計	全血	成分	合計	構成比	対計画比	対前年比	
血液センター	4,944	7,632	12,576	4,809	7,802	12,611	45.7%	100.3%	102.1%	12,351
移動採血車	14,283	-	14,283	14,987	—	14,987	54.3%	104.9%	98.8%	15,170
合 計	19,750	7,460	26,859	19,796	7,802	27,598	100.0%	102.8%	100.3%	27,521

3 献血推進・普及啓発の状況

県民の皆様及び協力団体に献血への理解を深めてもらい、意識の向上を図るため、以下の取り組みを行いました。

献血推進の取り組み	期 間	場 所	献血者数
愛の血液助け合い運動	7月1日～7月31日	各市町・赤十字病院 に懸垂幕又は看板を 設置	2,338人
学生サマー献血キャンペーン	7月12日・19日	エルパ アピタ	111人
全国学生クリスマス献血キャンペーン	12月13日・14日	エルパ	116人
学生スプリング献血キャンペーン	3月28日	アピタ	41人
はたちの献血キャンペーン	1月1日～2月28日	県下全域	4,300人
イベント実施状況 (8ライオンズクラブ及び福井県歯科技工士 会の協力によるイベント実施)	1月～2月で9日間	エルパ(4日間) アピタ(2日間) パリオ(1日間) アルファザナ江(1日間) イーザ(1日間)	(内 377人)

普及啓発の取り組み	期 間	場 所	参加人数
献血セミナー(出前講座)	通 年	中学・高校等 10カ所	1,497人
献血ボランティア研修会 (参加:高校2校)	7月16日・12月19日	福井県赤十字血液センター	13人



・SNS及び献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の活用

SNS(X 旧ツイッター)での継続的な情報発信に努めました。また、献血 Web 会員サービスの機能を活用し、献血依頼や事前予約を推進しました。

・SNS(X)の発信（フォロワー数 1,191 人 令和8年4月 23 日現在）

発信回数	主な内容
475 回	キャンペーン告知、献血稼働情報、不足血液型情報の発信

・献血 Web 会員サービス「ラブラッド」登録状況

※令和8年3月 31 日現在

新規登録数(目標数)	達成率	総登録数
3,027 人(3,000 人)	100.9%	21,929 人

・予約献血の状況

区 分	予約献血人数	予約率	令和6年度予約献血数/予約率
血液センター	10,596 人	84.0%	10,156 人 / 82.2%
移動採血車	3,217 人	21.5%	4,081 人 / 26.9%
合 計	13,813 人	50.1%	14,237 人 / 51.7%

4 献血功労者への表彰の状況

令和7年8月 20 日、福井県立図書館において献血に功労のあった団体及び個人に、表彰状等を贈呈しました。

厚生労働大臣表彰	厚生労働大臣表彰状	1団体
	厚生労働大臣感謝状	4団体
福井県知事表彰	福井県知事感謝状	4団体
日本赤十字社表彰 (献血団体)	金色有功章(活動継続 20 年以上)	1団体
	銀色有功章(活動継続 15 年以上)	1団体
	支部長感謝状(金色枠) 活動継続 10 年以上	2団体
	支部長感謝状(銀色枠) 活動継続 5 年以上	1団体
(献血推進団体)	金色有功章(活動継続 20 年以上)	1団体
	銀色有功章(活動継続 15 年以上)	1団体
	支部長感謝状(銀色枠) 活動継続 5 年以上	1団体
(献 血 者)	金色有功章(献血 100 回以上)	46 人
	銀色有功章(献血 70 回以上)	66 人



(5) 医薬情報活動

医療機関への情報提供や情報交換を行うことで、適正使用を推進すると共に輸血用血液製剤の品質、有効性及び安全性の向上を図るため情報収集を行いました。

- ・福井県合同輸血療法委員会 検査技師部会 7月4日開催 15施設 15人出席
- ・福井県合同輸血療法委員会 12月20日開催 14施設 20人出席
- ・福井県合同輸血療法委員会 学術集会 12月20日開催 49人出席
- ・各医療機関等における研修 6医療機関 6回実施
- ・看護師養成機関向け研修会 4看護学校 4回実施

(6) 安定供給に向けた取り組み

WEB発注への移行及び広域事業運営体制を踏まえた災害対応訓練を実施しました。

- ・WEB発注への移行状況 99.6%(3月時点)
- ・東海北陸ブロック内災害対応訓練(大規模地震を想定した初動対応訓練)の実施

宛先はご要望・ご希望に応じます。

令和8年 月 日

各自治会長 様

各 区 長 様

日本赤十字社福井県支部長

赤十字事業(講習・防災セミナー等)の活用について(依頼)

赤十字事業の推進につきまして、日頃から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、最も重要な事業である災害救護をはじめ、救急法、幼児安全法、健康生活支援などの講習、医療・血液事業、国際救援など様々な活動を行っています。

最近では令和6年元日に能登地方を襲った大規模な地震など、近年頻発しているあらゆる災害に際し日本赤十字社は、災害発生直後から被災者に寄り添った活動を続けています。

災害発生時には、日本赤十字社は直ちに救護班などの支援チームを派遣し、避難住民の方々に毛布や安眠セット(就寝用のマット等)、緊急セット(携帯ラジオ・懐中電灯や日用品等)など救援物資の配布を行います。

災害発生時には、公助、自助とあわせて地域住民が助けあう『共助』が大切であり、日ごろから住民が地域を支える態勢づくりが不可欠です。

各公民館・各自治会・まちづくり協議会等では防災に関する講座、防災訓練や研修などに取り組んでおられることと思います。日本赤十字社福井県支部は、こうした機会に地域に積極的に出向き、住民の方々の安全と健康増進を図るための防災セミナーや救急法等の講習を通して、赤十字の活動への理解促進につなげたいと考えています。

つきましては、講習・セミナー等の企画の際に、ぜひとも「赤十字事業の活用」をご検討いただき、地域住民の安全と健康増進、『共助』意識の醸成に役立ててくださいますようお願い申し上げます。

講習・防災セミナー等への講師派遣について

身近な人を救うため、とっさの手当や日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識・技術を学んでみませんか。

また、災害発生時や避難生活を具体的にイメージしながら、いのちを守る方法を自治会などで学んでみませんか。地域で学ぶことによりいざという時の「自助」と「共助」の力を高めることができます。

お申し込みは、ご希望の①講義内容（下記の表を参考）日時及び場所（原則1時間以上）②人数（概ね10人以上）を企画し、ご連絡をお願いします。*赤十字協力団体は無料です（教材費除く。）。

●赤十字講習（短期講習）

1	心肺蘇生とAEDの使い方
2	けがの手当など
3	水の事故にあった際の自己保全（着衣泳）など
4	ハンドケア・リラクゼーション
5	高齢期の健康と安全など
6	乳児・幼児の心肺蘇生とAEDの使い方
7	ロープワークなど

*救急法基礎講習及び各養成講習（いずれも有料）については支部ホームページまたは情報誌「日赤ふくい」をご覧ください。

●防災セミナー等

8	災害への備え	災害がもたらす様々な被害から平時の備えの重要性を理解することを目指します。地震、津波、風水害などの災害からいのちを守る方法、そして、その後の暮らしをつなぐための備えについて学びます。
9	ひなんじょたいけん	避難所に見立てた平面図とカードを用い、避難所で起きる出来事を疑似体験するゲームです。
10	災害図上訓練（DIG）	居住地域の地図を使って災害リスクや防災上の資源を可視化して把握し、参加者の意見交換によってそれぞれの気づきを共有しながら地域課題に向き合います。
11	災害エスノグラフィー	大災害における被災者の体験談をまとめた読み物を通じて、時間経過とともに変化する災害時の状況を追体験し、被災状況を具体的にイメージします。
12	家具安全対策ゲーム	平面図を描き、自宅の家具の危険個所を把握し、家具の安全対策の必要性について学びます。
13	防災出前授業 （「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」など）	子どもたちが自然災害の正しい知識を持ち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動を身につけることを目指します。
14	地域赤十字奉仕団と学ぶ！ 防災グッズ作製	・牛乳パックで笛　・キッチンペーパーでマスク ・新聞紙でスリッパ　・包装紙で箱作り　など
15	非常食炊き出し	ハイゼックス（災害救護用包装食）による炊き出しの方法を学びます（食材はご準備ください。）。
16	その他	能登半島地震、熊本地震、東日本大震災における赤十字の災害救護活動、赤十字の歴史、会員・社資、献血や血液事業に関すること、高齢者等の病気に関することなど、お聞きになりたい内容を具体的に記入してください。

年 月 日

日本赤十字社福井県支部長 様

【主催者】 〒
 住所（所在地）
 会社・団体名
 代表者名

講習・防災セミナー等の講師派遣依頼書

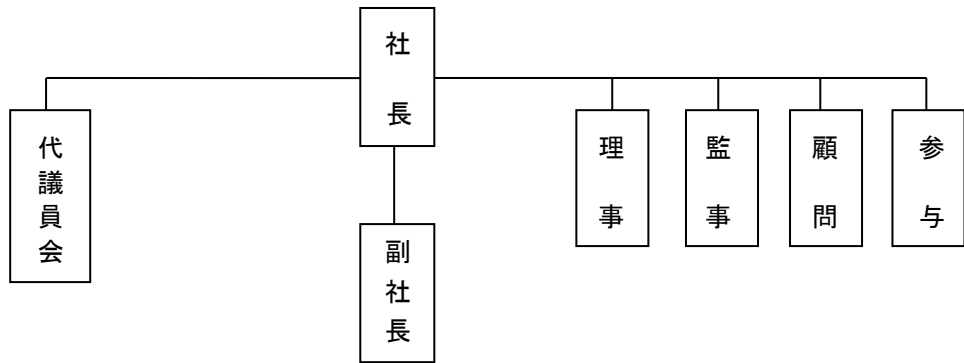
講習・防災セミナー等を下記のとおり開催したいので、指導員（者）を派遣していただきたく依頼します。

日 時 (必要に応じて 複数日を記入)	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
会 場 (必要に応じて 地図等を添付)	名称 所在地 〒 電話番号 ()
受講者	対象 人数 名 ※概ね 10 名以上でお願いします。
連絡先	団体名 担当者氏名 電話番号 F A X メールアドレス
内 容 (いずれかに☑)	<input type="checkbox"/> 講習（希望する内容をご記入ください。） <input type="checkbox"/> 防災セミナー等（希望する内容をご記入ください。） <input type="checkbox"/> 赤十字指定のカリキュラムで行う講習（希望する講習名を○で囲んでください。） <small>（講習修了時に認定証が発行されます。）</small> ・救急法基礎講習 ・救急法救急員養成講習 ・救急法救急員Ⅰ養成講習 ・救急法救急員Ⅱ養成講習 ・幼児安全法支援員養成講習 ・健康生活支援講習支援員養成講習 ・雪上安全法救助員Ⅰ養成講習 <input type="checkbox"/> その他（お聞きになりたい内容をご記入ください。）
赤十字協力団体 (該当があれば ☑)	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会 <input type="checkbox"/> 赤十字法人会員 <input type="checkbox"/> 赤十字奉仕団 <input type="checkbox"/> J R C 加盟校 <input type="checkbox"/> 献血協力団体 <input type="checkbox"/> 日赤各地区分区

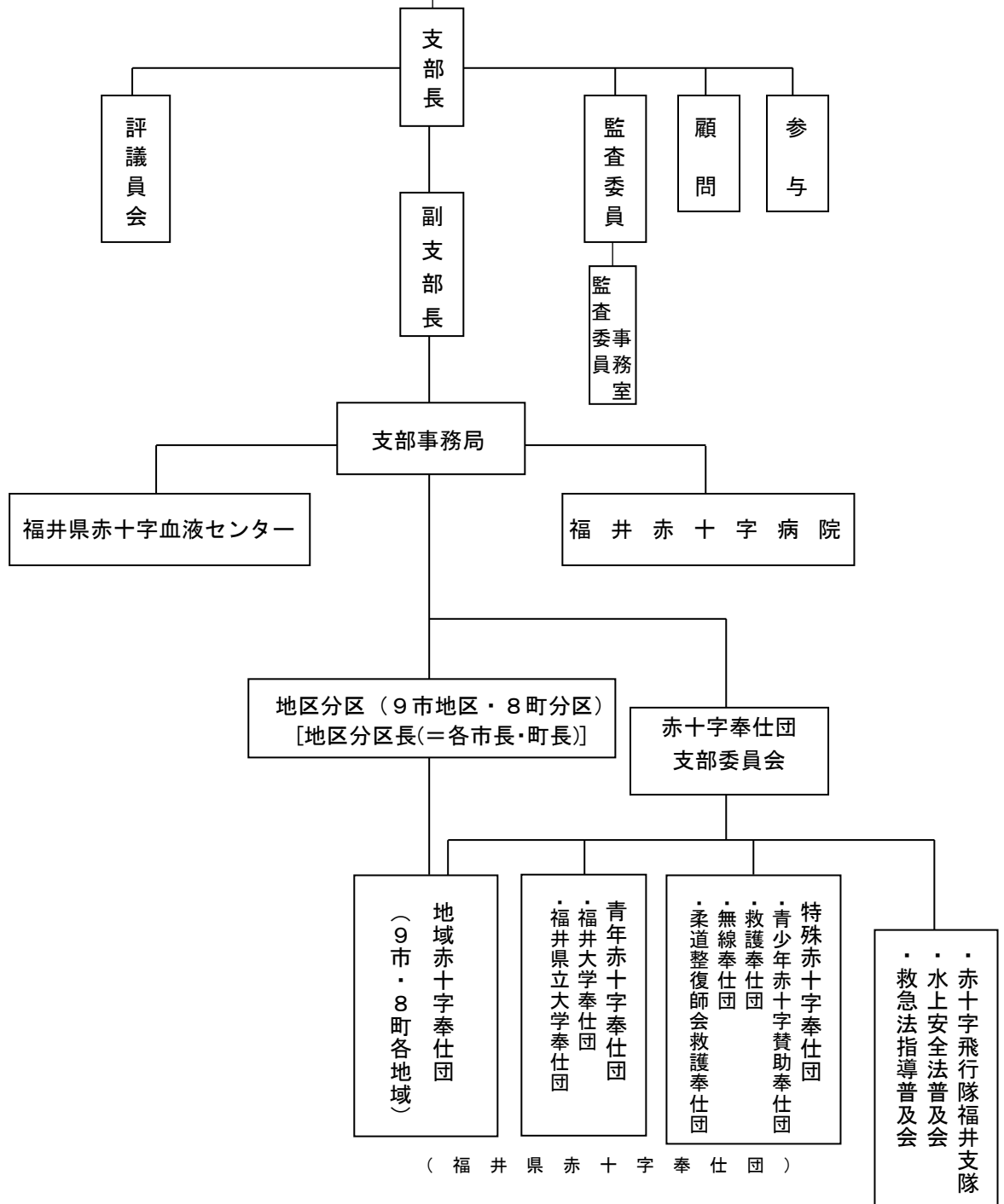
※赤十字協力団体への派遣は無料です。

日本赤十字社 本社・支部組織図

（本社）



（福井県支部）



（福井県赤十字奉仕団）

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

支部・施設所在地

日本赤十字社福井県支部	〒918-8011 福井市月見2丁目4-1 TEL(0776)36-3640・FAX(0776)34-6299 Mail soumu@fukui.jrc.or.jp
福井赤十字病院	〒918-8501 福井市月見2丁目4-1 TEL(0776)36-3630・FAX(0776)36-4133
福井県赤十字血液センター	〒918-8011 福井市月見3丁目3-23 TEL(0776)36-6275・FAX(0776)33-7171